

平成 25 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	25K05	氏 名	山崎 志穂
研究主題 —副主題—	伝統や文化に関する学習の充実を図る —浮世絵を例に—		
所属校	品川区立芳水小学校	派遣先	玉川大学教職大学院

項 目	内 容
I 研究の目的	本研究は、どうすれば「伝統や文化に関する学習の充実を図る」ことができるのかを考察し、指導のヒントとなる学習活動の提案を行うことを目的としている。研究テーマとして「伝統文化」、主な教材として「浮世絵」を設定した理由は、数年前に地域の浮世絵摺師の方がゲストティーチャーで来校したことがきっかけである。どうしたら浮世絵の素晴らしさを子どもたちに伝え、未来につなげていくことができるのだろうと考えていたことが本研究の出発点である。 浮世絵を含む「伝統や文化に関する学習の充実」については、社会的にも求められていることである。「我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成」は、教育基本法の基本理念の一つにも示されている。昨今、「グローバル化」の方に焦点が当たっているが、その基盤となるのは「我が国の伝統と文化」への確かな理解である。他国の文化を理解するには、日本の伝統や文化を理解することが土台となるからである。 そこで本研究では、「浮世絵」を使って、日本の伝統や文化への理解や大切にしようとする態度を育成するための具体的な提案をすることとした。
II 研究の方法	本研究を行うに当たり、平成 24 年度東京都教職員研修センター紀要第 12 号教科基礎調査研究の調査結果を分析した。その結果、次の 3 点が十分には実施されていないことが判明した。 ① 体験活動 ② 知識を活用する活動 ③ 学んだことを発信する活動 これを受け本研究では、「伝統や文化に関する学習の充実を図る」ためには、この 3 点の改善充実を基にした授業展開が必要と判断した。 また、指導をより充実させるため、我が国の伝統文化形成の基礎を調べ、本研究における「伝統文化」を定義した。さらに、具体的な授業として提案できるよう、「江戸文化」、「浮世絵」の教材研究を行い「江戸文化」、「浮世絵」の本質等を調べた。 これらの要素を取り入れ、誰もが使える授業モデルの提案を目指した。実際の授業は社会科を基軸にした上で図画工作科との合科を図り、「江戸文化」単位を通して検証することとした。授業構成は、①江戸文化の理解、②浮世絵の理解、③浮世絵作り（体験活動）＋浮世絵をプロデュース（知識を活用する活動）、④浮世絵の紹介（学んだことを発信する活動）である。 研究の結果については、実践授業及び児童アンケート調査を基に、研究の成果と課題を明らかにした。

Ⅲ 研究の結果	実践授業及び児童アンケートの分析結果から、成果として以下の5点が明らかになった。 ① 「体験活動」は、子供達の学習意欲につながり、日本の伝統や文化について実感を伴って理解することができる有効な学習活動である。 ② 「知識を活用する活動」は、日本の伝統や文化を身近に考えたり、継承していかうという意識をもたせたりするのに有効な学習活動である。 ③ 「発信する活動」は、「日本の伝統や文化のよさを自信をもって発信」することができる能力の育成には有効な学習活動である。 ④ ③の成果については、そのベースとなる「知識を得る」学習活動が十分に実施されなければ十分な成果は期待できない。 ⑤ 「体験活動」、「知識を活用する活動」、「発信する活動」は、社会科の学習に対して肯定的な児童の育成に有効である。
Ⅳ 考察	研究の結果から、「体験活動」、「知識を活用する活動」、「学んだことを発信する活動」は、「伝統や文化に関する学習の充実を図る」のに有効であり、社会科好きな児童を育成するのにも有効であるという成果が得られた。 特に、児童のアンケートの中で「体験活動」の支持率が高かった。児童アンケートでは、「浮世絵を理解するのに役立った」、「職人の技術の高さが分かった」とする児童がともに9割を超え、「体験活動」からでしか得られない学びがあったことが分かる。 一方、研究過程で出てきた課題もある。 ① 教師自身が、伝統文化に関する学習＝イベント的な単発的学習ではなく、日常的な普段使いの学習活動として意識をもつこと。 ② 社会科の授業のみで「伝統や文化に関する学習の充実を図る」のは難しいため、「合科」などの工夫が必要であること。 ③ 効果的な「伝統や文化に関する学習」を行うためのカリキュラム編成をすること。 今回の実践授業は、図画工作科と合科で学習を行ったが、扱う伝統文化の種類によっては、総合的な学習の時間や音楽、外国語活動などとコラボレーションし、児童が伝統文化について効果的に学習できるようにすることが必要である。 本研究では「浮世絵」を主な教材として扱ったが、日本の伝統文化の中には他にも魅力的なものが多々ある。今後更に「伝統や文化に関する学習の充実を図る」ための研究が重ねられ、誰もが実践できることが必要である。